

川越からの報告 生きものを育む田んぼプロジェクト 生きもの育み雁の舞う里山・街づくり

平成29年2月18日

かわごえ里山イニシアチブ
Kawagoes Satoyama Initiative

代表理事 増田純一

生きものを育む田んぼプロジェクトは、平成28年度の「国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)」が推奨する認定連携事業となりました。

「生きものを育む田んぼプロジェクト」は、サイサン環境保全基金助成事業で運営されています

1

かわごえ里山イニシアチブでは

- 川越市福田の農家と消費者(非農家)が一緒に活動を進めています。



2

川越からの報告

- 本日、農家・消費者(非農家)という立場で前段、後段に分かれて「川越からの報告」を行います。
- 前段では会員の全般的な活動を、増田が代表して報告し、後段では会員農家の立場から高梨農園様が報告致します。

3

前段発表: 主な内容

- 活動の基本的考え方
- 生きものを育む田んぼプロジェクト2016
- 井戸掘りプロジェクト
- 今後の活動の視点
- 最後に

4

1 活動の基本的考え方

- かわごえ里山の3つのコンセプト
 - みんなで連携して
 - 生きものの賑わいを取り戻そう!!
 - 生きものと共生して、つながろう、拡がろう!

生物多様性有機農法で
環境に優しい田んぼ(米作り、マコモ作り)活動をしていきます。

5

1 活動の基本的考え方

「田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト」

2010年に名古屋で開催されたCOP10(国連の生物多様性条約国会議)で愛知目標のもとに設定されたラムサール・ネットワーク日本が取り組む「田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト」の行動計画を基本に活動をしています。

誰でもできる水田目標1、7、8

- 水田目標 1「水田の生物多様性の普及と、価値を伝える」
- 水田目標 7「水田の生物多様性を維持または向上する対策を行う」
- 水田目標 8「農業によらない農法を実施する」

6

1 活動の基本的考え方

環境問題を考えながらも、地域に根ざした活動

- お米作りだけではない田んぼの価値を伝える
- 生きもの豊かな田園風景を守る(休耕田を減らす)
- 田んぼをフィールドにした人と人との結びつき
- 生きものに優しい(共生する)田んぼ活動
- 環境と経済が“響きあう(互いに作用しあう)”活動

7

2 生きものを育む田んぼプロジェクト2016 ～生物多様性向上の取り組み～

- 会員制による米作り
- 生物多様性有機農法「いのち育む有機稲作2016」
 - 無農薬・無化学肥料による米作り
 - 民間稲作研究所の科学的根拠に基づいた稲作技術
- 農家と消費者(非農家)の連携
 - 環境と経済が成り立つ活動(WIN-WINの関係)
 - 耕作放棄地を無くし景観を保全
- 参加者のニーズ
 - 有機稲作に興味がある
 - 自給自足をしたい(衣食住)
 - 農的技術を学びたい
 - 自然や土に触れたい
 - 子どもの環境や食と健康に関心がある
 - 生きもの調査や田んぼ体験をしたい
 - 無農薬・無化学肥料のお米が欲しい

8

2 生きものを育む田んぼプロジェクト2016 ～生物多様性向上の取り組み～活動の写真集-1



田んぼフォーラム 田んぼプロジェクト説明会 ミツバチの巣箱作り 有機稲作ポイント研修



有機稲作ポイント研修実習 田植え実習 田植え後の研修

9

2 生きものを育む田んぼプロジェクト2016 ～生物多様性向上の取り組み～活動の写真集-2



田んぼの生きもの調査 マコモの栽培 マコモでお盆飾り作り



東洋大学小瀬研究室 地域の農家と暮らさい コンバインでの収穫 乾燥機設置
田んぼを見守る田んぼカメラ

2 生きものを育む田んぼプロジェクト2016 ～生物多様性向上の取り組み～活動の写真集-3



田んぼの食べる生きもの調査 川越蕎麦商組合との連携 マコモで正月飾り作り



東洋大学生育調査
実験区画



米つぶ祭りで足ふみ脱穀体験



川越ファーマーズマーケット

「生きものを育む田んぼプロジェクト2016」は、平成28年度の「国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)」が推奨する認定連携事業となりました。

写真は認定事業授賞式の模様



認定事業ロゴ

12

3 井戸掘りプロジェクト

生物多様性有機農法(抑草技術)のポイント
一定期間(2か月程度)、一定水位(7cm)を保つ

問題点: 入間川から取水しているので入間川の濁水

水の安定的確保が必須条件

井戸掘りプロジェクト

抑草の成功事例: 耕福米高梨農園 はるみず田んぼ



平成26年に1反⇒平成28年に水管理による抑草農法で3.5町歩に拡大 ¹³

3 井戸掘りプロジェクト

井戸掘りプロジェクトにより、安定的に水を確保できる
福田・山田地域の対象田んぼ



井戸掘りプロジェクトにより、プロジェクト田んぼだけでなく、地域全体を潤します。

4 今後の活動の視点

“ビオトープ付田んぼ”(準備中)

- ◆生きものの循環を1年通して豊かにする。
水温を安定させて生育を助ける。



4 今後の活動の視点

雁は川越市の市の鳥、初雁とつく地名も多数

雁の舞い戻るような環境に優しい農法

×

雁にちなむ川越の名所を結びエコツアー

「初雁の里」として次世代に



「CO江戸かわごえ・初雁の里」のロゴ
田んぼ女子デザイン♪

- ◆夕陽に舞いながら稲穂を運ぶ雁
- ◆羽で作ったハートの輪の中に川越のシンボル、時の鐘
- ◆CO江戸のCOは「COoperate / 協力する、目標に対して一緒に働く」の意

4 今後の活動の視点

有機稲作のモデル田んぼを通して、永続的暮らしの学びと体感できる新たな観光地を川越から発信していきたい!

- エコツアーや歴史・文化を取り入れた新しい視点での観光スポットに!!

川越の蔵造り
+ 雁にゆかりの地
+ 初雁の里

⇒次世代に残せる街づくり
経済と環境が両立するモデル地区を目指したい



4 今後の活動の視点

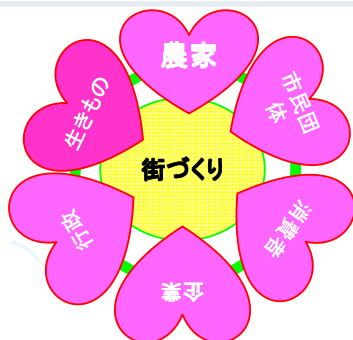
女性の力や視点を活かす

- 食の安全 & 社会的活動に対して意識の高い女性の加入
- 田んぼ女子の細やかな視点や配慮、アイデア創生を活用
- 6次産業化に向けたデザイン



今後の活動の視点

- ①多様な地域の活動団体との更なる連携
共生共同の花を咲かせる



結びに

<課題>

- 井戸による水の安定確保

<目指す方向性=WIN-WINの街づくり>

- 環境&経済が響きあう
- 人と人、人と生きものが共生する地域
- 全国の事例からの学びと連携

「生きものを育む田んぼプロジェクト2017」により
生きもの育み雁の舞う里山・街づくりを“初雁の里”を目指します

E-mail:kawagoesatoyama@gmail.com

FB:https://www.facebook.com/kawagoesatoyama/

HP:http://kawagoesatoyama.ciao.jp (H29.4.1開設予定)

20

4 今後の活動の視点

初雁の里

田園風景保全と持続可能な暮らしを学ぶ体験型エコツアー、
継承したい日本の文化(味噌・納豆作り、縄ないなど)の拠点

■ 農作業・収穫体験

■ 春夏秋冬の景観を生かした観光
(青々とした稲穂、レンゲやストロベリー
キャンドル、小金色の実りの時期)

